1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200243		
法人名	社会福祉法人博愛福祉会		
事業所名	ゆとり庵 石守		
所在地	兵庫県加古川市神野町石守301-4-1		
自己評価作成日	平成29年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・家族様のご要望、ニーズに100%お応えできようしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地にある、和風建築の小規模多機能型居宅介護事業所である。敷地内に桜並木があり、日々の散歩や花見等が楽しめる環境に恵まれている。トライやるウィーク・ボランティアの受け入れ、農業高校の高校生との園芸体験、地域行事への参加等、地域交流の機会を広げている。買い物・食事づくり・制作・プランターでの園芸等、利用者の好みや力量に応じて活動に参加できるように支援している。季節を感じられるドライブや外出の機会作りにも努めている。送迎時・定期的なモニタリング訪問等に家族のニーズを把握し、柔軟なサービス調整により家族支援にも努め、家族からの信頼も厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、みんなの笑顔があふれるゆとりの家になるよう努めている。	法人内の小規模多機能型居宅介護事業所共通の理念と共に、事業所独自の理念を作成している。前記に「地域社会に貢献することを目的とする」という地域密着サービスとしての役割を盛り込んでいる。それぞれを玄関と事務所に掲示し、周知を図っている。	会議等で定期的に振り返る機会を設ける等、理念の実践に向けた、さらなる取り組みが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・活動がある際には、お声掛けをして頂き、お祭り等各種行事に参加している。また、トライやるウィークの受け入れを実施し、中学生等の交流も図っている。	民生委員がパイプ役となり、自治会組織から地域の祭り(夏祭り・コスモス祭り)等の催し物の紹介を受け、参加している。買い物等で地域資源を活用している。三味線・和太鼓等のボランティアの受け入れ、獅子舞の立ち寄り、農業高校の高校生による園芸体験等を通して、地域交流を広げている。トライやるウィークの中学生の受け入れ、玄関にAEDを設置し地域住民の使用を広報する等、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門知識を地域の方へ研修等の形で行なことはないが、近隣の方が見学等で来られた際には、介護保険や病状等について、情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方に参加頂いたことはないが、会議の場で話し合われたことは、サービスに活かしている。	利用者・地域包括支援センター職員・市職員・民生委員が参加し、2ヶ月に1回(年間6回)運営推進会議を開催している。写真入りの資料を準備し、事業所の活動をわかりやすく説明し、利用者状況や苦情・事故等についても報告している。参加者からの地域の社会資源や催し等についての情報提供を、サービスや運営に活かしている。家族にも開催案内を行っているが、参加には至っていない。	全家族への参加案内を継続すると共に、参加案内に記入欄を設け、不参加でも意見・質問等が表せるようにする等、家族が参画できる工夫が望まれる。知見を有する者の参加も望まれる。また、運営推進会議の議事録の公開(設置・掲示・郵送等)が望まれる。

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に市の介護保険課の方に参加して頂き、サービス内容や利用者様の情報を報告している。また、助言や指導を受けている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員・市職員の参加があり、利用者・事業所の状況を伝え、情報提供や助言を受けている。市の担当課と協働して生活保護受給者の支援を行う等、適宜、市役所と連携を図っている。必要時には、出向いたり、電話で問合せ相談している。また、地域の小規模多機能事業所連絡会に参加し、連絡会として市と連携する機会もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。徘徊等がある利用者様については、随時、所在確認を行っている。	2ヶ月に1回開催する法人内研修に事業所から研修担当者が1名参加して受講し、受講後、事業所の正職会議で報告して周知し、パート職員には資料を配布し周知する仕組みがある。身体拘束廃止についても、前記の方法で研修を実施している。身体拘束廃止を重要事項説明書に明記して、契約時に家族に説明を行い、拘束を行わないケアを実践している。玄関は昼間は施錠せず、閉塞感を感じない支援に努めている。心理的な拘束もないように、管理者層がその都度注意と説明を行っている。	法人内研修を正職会議で伝達研修した実施記録、参加できなかった職員への周知の記録の整備が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での研修に代表者が参加し、それを事業所へ持ち帰り、研修を実施している。	上記、身体拘束廃止と同様に、高齢者虐待防止についても学ぶ機会を設けている。不適切ケアにつながる言葉かけや対応については、管理者層がその都度注意喚起し意識向上に努めている。送迎時・訪問時に家庭環境や家族関係の把握に努め、必要時にはサービス調整の提案を行い、家族の介護負担軽減に努めている。職員向けに仕事に対するアンケートや法人でストレスチェックを実施し、疲労やストレスがケアに影響しないよう取り組んでいる。	法人内研修を正職会議で伝達研修した実施記録、参加できなかった職員への周知の記録の整備が望まれる。

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人・保佐人等を利用されている方はいらっしゃらないが、常に意識を持ち、必要があれば検討・勧めを行うよう努めている。	現在、成年後見制度・日常生活自立支援事業を要する利用者はいない。それらの制度についての研修実施には至っておらず、職員の理解に差がある状態である。今後、制度利用を要する場合は、ケアマネジャーを窓口とし、地域包括支援センターと連携する体制を整えている。	職員全員が制度について一定の知識が持てるように、リーフレット等を活用する等、研修の実施が望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、承諾を得ている。また、不明な点がある場合には何時でも対応する旨をお伝えしている。	イラスト・図表・写真を入れて、わかりやすいパンフレットを作成し、問い合わせ・見学時にはパンフレットをもとに説明している。契約時は、「契約書」「重要事項説明書」「利用時リスク説明書」「写真・動画の使用」等を用いて丁寧に説明し、同意を得ている。契約書の内容改定時には、改定前と改定後の内容をわかりやすく説明した文書を作成し同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的で開催しているが、ご家族様の参加は少ない。送迎等の際に随時要望等を聞き取り、反映するように努めている。	利用者の意見は、運営推進会議の参加時やサービス提供時に把握に努めている。家族の意見は、連絡帳・送迎時・訪問時等に把握に努め、内容は申し送りノートを活用して職員に周知し、迅速な対応に努めている。内容に応じて、サービス計画に採り入れて支援に反映している。	「石守だより」の定期発行等で家族に情報提供し、意見・要望を出しやすい工夫が望まれる。また、利用者・家族からの意見を反映した記録の整備が望まれる。

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員介護や臨時の会議を随時行うことが、意見・提案を聞き取る努力をしている。	正職会議を月1回開催し、職員が意見・提案を出し合って話し合い、管理者層が把握している。内容は、議事録・申し送りノートで共有している。日々の業務の中で職員から出された提案・意見は、申し送りノートで共有して迅速に対応したり、正職会議で検討する等、内容に応じて対応している。業務改善・環境整備など、職員の意見・提案を、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課が年2回あり、日々の独力や実績を賞与に反映している。また、個々人の生活に併せ、就業形態を変えるなどし、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の研修に参加している。また、そこで得た知識・経験については、事業所へ持ち帰り会議等の際に他従業員に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との同業者間の連絡会が定期的であり、できる限り参加し、意見交換を行っている。また、法人内でも他事業所との連絡会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面談を行い、ご本人の要望や意見の聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に面談を行い、ご家族の要望や意見の聞き取りを行っている。		

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談時に必要なサービスを見極め、福祉用具や訪問看護等の他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かせるよう、ご自身で行えることについては極力行って頂いている。また、施設内での作業(料理・おしぼり配り等)も手伝って頂いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノート等の活用や送迎時の家族様との話し合い等により情報の共有を図っている。また、困りごとがあれば、随時対応することで信頼関係構築に努めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や買物等ご本人様がこれまで生活されたこられた環境で支援を継続するように心がけている。	フェイスシート、家族記入のセンター方式の「本人の生活史」等をもとに、馴染みの人や場所について把握に努めている。利用者の家族・親戚をはじめ、友人・知人が事業所に来訪することも多く、リビングや泊まりの部屋でゆっくり面談できるように配慮している。また、買い物・美容院・通院の送迎支援を行い、馴染みの場所との関係継続も支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係性を考慮した上での席配置等に努めている。また、トラブルがあった場合には職員がすぐに対応することで、孤立状態になることを防いでいる。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した場合でも、電話連絡等を実施し近況の把握に努めている。また、別事業所等を利用された場合には情報提供等を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時やプラン見直し等の際には必ず意向を確認している。また、日々の生活でも、都度意見・意向を確認するように努めている。また、意向確認が困難な場合には、ご本人の表情を読み取ったり、家族様への聞き取り等により対応している。	契約時に把握した利用者・家族の思い・意向はフェイスシートに記録し、日々のコミュニケーションで把握した内容は申し送りノートや支援経過記録に記録し、支援やケアプラン見直しに反映している。意向の把握が困難な利用者については、家族の意見を参考にしたり、表情・反応から汲み取ったり、答えやすい質問を工夫する等、個別の方法を工夫して把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にはご家族様に協力を頂き、ご本人様の生活歴や1日の過ごし方・趣味等について、記載を頂いている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅内での過ごし方を伺ったりすることで、能力の把握に努めている。また、自宅に近い環境で過ごして頂くことで、残存能力を活かせるように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者が全て集まり会議をすることは困難な状況である。ケアマネがご本人・ご家族の意向や他専門職の意見を確認した上で、担当職員と定期的カンファレンスの機会を持ち、計画作成を行っている。	事業所のフェイスシート・家族記入のセンター方式シートをもとに、居宅サービス計画・ケアプランシート(現場の介護計画)を策定している。サービス実施は、介護記録と、ケアマネジャーの支援経過記録に記録している。ケアマネジャーが、毎月モニタリング内容を経過記録に記録している。3ヶ月に1回、担当者がケアプランシートを評価し、ケアマネジャーも参加するカンファレンスで、ケアプランシートの見直しを行っている。6ヶ月に1回、ケアマネジャーが居宅サービス計画の見直しを実施している。見直し時には、担当者のモニタリングシート・カンファレンスへの参加で職員の意見を把握し、利用者・家族の希望は、モニタリング訪問で把握している。	3ヶ月に1回のカンファレンスでは、利用者の状況と共に、ケアプランシートの内容の変更の有無も検討することが望まれる。居宅サービス計画の見直し時には、6ヶ月に1回のモニタリングと共に、再アセスメントを行うことが望まれる。また、かかりつけ医・訪問看護師・福祉用具事業者等関係者からの意見を、ケアマネジャーのカンファレンス記録に記載することが望まれる。

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入については内容が乏しい状態であるが、特記事項については記載を心がけている。また、共有については申し送りノートを活用している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いを中心に訪問、宿泊を必要に応じて組み合わせ対応している。また、市や地域包括・民生委員などに社会資源の情報を求めるなどし、サービスの多様化が出来るよう努めている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通い慣れた、美容院や買物施設等を利用した支援に努めている。また、必要に応じて、地域包括や民生委員との連携に努めている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診について、送迎介助実施している。また、関係づくりの為に、サービス開始時には出来る限り挨拶に行くなどし、関係づくりを心掛けている。	フェイスシートに、利用者個々のかかりつけ医を明記している。基本的には送迎の支援を行い、利用者の状況に応じて家族と共に同行することもある。家族が同行する時は、家族に情報を伝達し、受診結果は必要に応じて申し送りノートに記録して共有している。	受診結果は、申し送りノートで共有すると共に、個人の経過が把握しやすいように、利用者の個人記録にも記録として残すことが望まれる。
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、気づいたことがあれば、都度看護師へ報告を行っている。また、訪問看護等については、ケアマネが連絡を密に行っている。受診等の必要性がある場合には、随時勧めを行っている。		

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先の病院へ情報を持参し、現状のサービスや家族状況等についての説明を行い、関係構築を図っている。	入院時の病院への情報提供は、要請に応じてケアマネジャーが適宜行っている。入院中は、面会時や地域医療連携室への問い合わせで情報収集に努めている。退院前に開催があれば、退院カンファレンスに参加している。退院時は看護サマリーの提供を受け、退院後の支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応が想定される場合には、適宜、家族様や主治医等を含め早期に話し合いを持つように努めている。また、スタッフへの説明や対応方法なども同時に行うよう努めている。	契約時に、事業所で出来ること・出来ないことを説明したうえで、看取り介護を行う方針であることを口頭で説明している。重度化を迎えた段階で、主治医・家族を交えて話し合い、事業所で行える支援内容を居宅サービス計画に明記し同意を得ている。主治医と連携をながら看護・介護に取り組み、事業所・自宅で、看取り対応した事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、看護師から急変時の対応については指導を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、災害が行った場合には全スタッフが対応できるようにしている。また、地域の避難場所等の確認は行っているが、地域との協力体制構築は築けていない。	28年度は、12月・3月に昼間想定で、避難・通報・消火の総合訓練を実施している。29年度は7月に実施し、年度内にもう1回実施を予定している。訓練は基本年2回実施し、1回は消防署職員の立会いで行っている。地域との連携については現在、運営推進会議で検討中である。	夜間想定での訓練、地震想定での訓練の実施が望まれる。また、水・食料品・備品など、必要な物品をリスト化し、管理責任者を設定し、備蓄の整備が望まれる。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人柄や人格に併せた言葉遣いを心がけている。また、職員間での相互啓発に努めている。	上記、身体拘束廃止・高齢者虐待防止と同様に、法人内研修で倫理・法令や接遇を学ぶ機会を設けている。尊厳やプライバシーを損なう言葉や対応については管理者層が注意喚起している。個人ファイル等は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、個人情報の使用と写真動画の使用については、契約時に利用者・家族に同意を文書で得ている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりの中で、思いを聞いたり、希望を聞くようにしている。また、自己決定できるように促している。難しい場合には選択し等を与えている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上の都合もあるが、極力思いをかなえられるように配慮している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを把握するように努め、洋服選び等の際には、必ず意見を求めるようにしている。また、馴染みの美容院へ行くなど支援を実施している。		

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを把握するようしており、また、その好みを出来る限り献立に反映するようになっている。また、準備や食事の片づけについては、毎回ではないが、職員と一緒に進めてもらっている。	献立は、利用者の好みや行事・季節感等に配慮して、1カ月単位で職員が作成している。食材は、利用者と一緒に、ほぼ毎日、地域のスーパーへ買い物に出かけている。準備・調理・配膳・下膳・食器洗い等、利用者の好みと状況に応じて食事作りの場面に参加できるように支援している。利用者の体調や状況に沿って把握し、適切な食事形態で提供している。職員も利用者と同じテーブルで同じ食事をとり、家庭的な雰囲気の中で食事が楽しめるようにしている。桜の下で花見弁当を楽しむ機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢な事を考慮し、高カロリーや栄養が偏るメニューは控えている。水分については小まめに提供している。食事形態(刻み・ミキサー・トロミ等)については、個人の状態を把握し適宜対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の歯ブラシセットを用意して頂くよう、お願いした上で、毎食後、声掛けを行うようにしている。しかしながら、全ての利用者様の実施は出来ていない。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方であっても、個人の排泄サイクルを把握し、出来る限りトイレ誘導を行うようにしている。また、訴えができない方であっても定期的に行うなどし、失禁を減らすように努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握している。在宅でオムツ使用の方でも、サービス利用中はリハビリパンツを使用しトイレ対応する等、可能な限りトイレでの排泄を支援している。また、使用している排泄用品が適当であるかの確認を随時行い、家族の了承を得て、現状に即した変更を行っている。ドアの開閉・誘導時の声かけ等、プライバシーや羞恥心に配慮した支援を行うように努めている。	

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方については、水分提供を小まめに行うようにしている。また、記録により便が出ていない期間を把握するようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数・日程についてはある程度決定させて頂いているが、出来る限りご本人の要望に沿えるように努めている。	個室とリフト浴を設置している。入浴回数は、週に2～3回を基本とし、自宅での入浴状況を考慮し、また、可能な限り希望に対応している。異性介助を嫌がる方には同性介助に対応し、入浴拒否のある方には時間や職員を変えて対応している。浴槽の湯は一人ずつ交換し、衛生的に気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。ゆず湯で季節感を楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや畳スペースでいつでも休息できるようにしている。また、希望に応じて随時居室で休めるようにもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理を行い、仕分けまで行っている。薬情報はファイリングし、変更があった場合にはご家族から情報提供して頂くよう、依頼している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や編み物、塗り絵等、ご本人様が楽しみを持って実施出来るものについて提供や声掛けを行っている。		

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わえるよう、各シーズンにはドライブに出かけられるよう、計画等を行っている。また、日々の生活でも、買物への同行などを行い、楽しんで外出してもらえるように取り組んでいる。	日常的には、散歩・買い物等出かける機会を設けている。梅・コスモス・果樹園など季節を感じる外出や、夏祭り・コスモス祭りなど地域行事にも出かけている。また、急な希望であっても可能な限り対応し、外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金の管理を行っている方については、必ず、声掛け・同意を頂き、買物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より要望があれば、施設の電話を使い各関係先に連絡を行っている。また、利用方法がわからない場合には支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには植物や飾りつけ等を置くことで、居心地良く過ごせるよう工夫を行っている。	共有スペースはゆったりと広く、リビングと和室があり、家庭的な雰囲気である。テーブル席とソファを配置し、利用者が好みの場所で過ごせるように配慮している。また、動線確保やトイレのわかりやすい表示も行っている。利用者が中心になって製作した季節の飾りや、観葉植物を設置し、季節感のある居心地よい環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で話し合いが出来るように対面にしたり、個人で使えるようにソファの配置等を配慮している。		

小規模多機能型ゆとり庵 石守

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活・身体状況に応じて、洋室・和室の利用をして頂いている。大きな物品については遠慮してもらっているが、写真等の小物は持参して頂いている。	泊まりの部屋は、和室2室、洋室7室で、利用者の身体状況に合わせて調整している。各室には、タンス・寝具(洋室にはベッド)・エアコンを設置している。私物の持ち込みは基本的には制限せず、落ち着いて居心地良く過ごせるように支援している。利用者は、写真・小物・枕・寝具などを持参している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはご自身でして頂いている。玄関先には長椅子を用意し、靴の履き替えがしやすいように配慮している。また、手すりを設置し安全に移動できるようにしている。		